

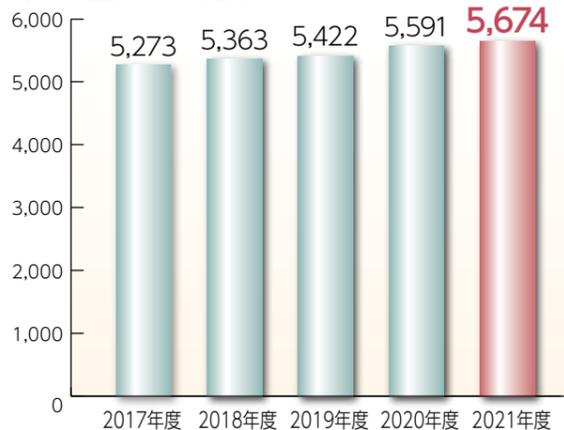
2021年度の事業概要

2021年度は中期経営計画『～プロローグNEXT50～共創の発揮』の最終年として、計画完遂に向けて全力で取り組みました。基本方針を①持続性の高い収益体質への深・進化②金融仲介機能発揮の深・進化③人材力・組織力の深・進化とし、地域やお客様の信頼と期待に応え、地域と共に発展し、豊かな地域の未来を創り上げていくこと（共創）によって、地域金融機関としての強固な経営基盤を確立することを目指し、それぞれの施策を地道に推進いたしました。

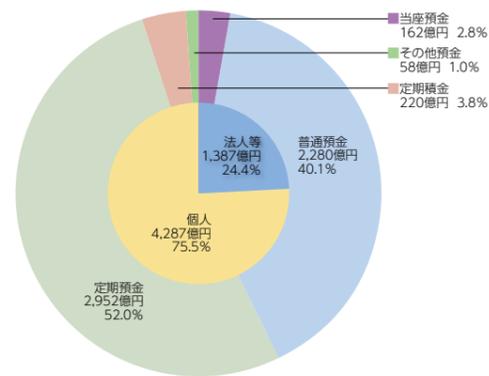
預金・積金

コロナ禍での制約もありましたが、地道できめ細かな営業活動を通じ、お客様との絆を深め、ボーナス預金や定期積金、年金口座の募集に取り組みました。預金残高は対前期末比 82 億円増加し、5,674 億円となりました。

▶ 預金残高の推移 (単位：億円)



▶ 預金の法人・個人別、科目別構成



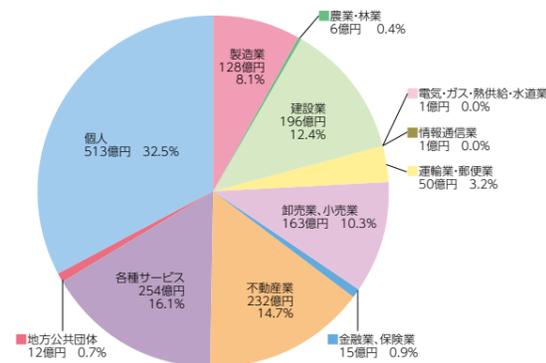
貸出金

事業者の皆さまには様々なニーズにお応えした融資商品の提供と資金繰り支援に積極的に取り組み、個人の皆さまにはライフステージに応じた各種ローン商品の提供に取り組みましたが、コロナ禍における資金繰り不安からの資金調達の動きも落ちてきたこと等により、貸出金残高は対前期末比 68 億円減少し、1,577 億円となりました。

▶ 貸出金残高の推移 (単位：億円)



▶ 貸出金の主な業種別構成



損益

超低金利局面の長期化等により、貸出金利息や有価証券利息配当金等が減少したものの、経費削減に努めたこと等から、当期純利益は対前期比 62 百万円増加し、1,134 百万円となりました。

▶ 経常収益の推移 (単位：百万円)



貸出金利息、有価証券利息配当金等の減少により、経常収益は減少しました。

▶ 当期純利益の推移 (単位：百万円)



厳しい収益環境のなかではありましたが、経費削減等の取り組みもあり、1,134 百万円の当期純利益を計上することができました。

自己資本

当金庫の健全性・安全性は引き続き高い水準を堅持しており、お客様からの普通出資金や内部留保の蓄積により自己資本比率は 26.86%となりました。今後も、堅実経営を基本として、一層強固な財務体質の構築を目指してまいります。

▶ 自己資本額の推移 (単位：億円)



自己資本額は、当期純利益として 11 億円を計上したこと等により、対前期比 10 億円増加し、567 億円となりました。

▶ 自己資本比率の推移 (単位：%)



自己資本比率は、自己資本額が対前期比 10 億円増加したこと等から、対前期比 2.21%上昇し、26.86%となりました。なお、自己資本比率は金融機関の健全性を示す重要な指標のひとつで、国内金融機関は4%以上が求められていますが、当金庫は基準を大きく上回っており高い水準の健全性を維持しています。

主な経営指標の推移

		(単位：百万円 %)				
		2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
利 益	経常収益	7,058	6,958	7,430	6,427	6,081
	経常利益	1,702	1,642	1,512	1,531	1,596
	当期純利益	1,252	1,209	1,080	1,071	1,134
残 高	出資総額	1,188	1,188	1,188	1,166	1,164
	出資総口数 (千口)	2,376	2,377	2,377	2,332	2,329
	純資産額	58,506	59,744	57,791	58,025	56,277
	総資産額	591,441	602,562	606,877	668,041	674,098
	預金積金残高	527,313	536,305	542,218	559,182	567,407
	貸出金残高	154,004	154,679	155,796	164,605	157,765
	有価証券残高	250,655	235,864	204,424	221,753	230,196
単体自己資本比率		24.83	24.20	23.37	24.65	26.86
出資配当率		4.0	4.0	6.0	4.0	4.0
出資1口当たりの配当金 (円)		20	20	30	20	20
役員数 (人)		15	15	15	14	14
	うち常勤役員数 (人)	10	10	10	9	9
職員数 (人)		340	339	325	322	315
会員数 (人)		33,587	33,672	33,716	32,573	32,462

(注) 総資産には債務保証見返勘定を含んでいます。